

日本大学大学院文学研究科 社会学専攻 社会福祉学コース COURSE GUIDE



社会福祉学コースでの学びと特色

- ▶ 多様な経歴・専門性を有する教員との少人数制の授業
- ▶ 社会人のリカレント教育にも対応した夜間開講授業
- ▶ 研究法から専門分野まで網羅する充実のカリキュラム

教育方針

社会学専攻社会福祉学コースは、2017年に開設されました。学部からの進学者はもちろん、現場経験のある社会人や、海外からの留学生にも門戸を開き、魅力的な学びを提供しています。多様な経歴を持つ教員の指導を通じ、洞察力豊かな専門知識と卓越した研究能力を身につけたプロフェッションを育成します。



網羅的カリキュラム

本コースでは、「社会福祉研究法」、「社会福祉基礎研究」、「社会福祉応用研究」の3つの領域からカリキュラムが構成されています。

研究方法に関する「社会福祉研究法」、研究領域の制度や研究対象に関する基礎的課題等に関する「社会福祉基礎研究」、そしてより高度な研究のための「社会福祉応用研究」をそれぞれ修めることで、専門的実践的な研究を段階的に積み上げることが可能です。

柔軟な学びのサポート

働きながら研究に取り組めるよう、夜間や土曜日に授業を設定しています。

さらに本コースは大学院社会福祉学専攻課程協議会加盟校に加盟しています。13の加盟校間では相互履修制度を設けており、関心のある授業を履修して、修了単位の一部とすることが可能です。

柔軟に自身の専門性を高めることができるカリキュラムで、質の高い学びをサポートします。



大学院**社会福祉学**専攻課程協議会
the Federation of Graduate Schools of Social Welfare

—加盟校—

上智大学 明治学院大学 日本女子大学
東洋大学 淑徳大学 日本社会事業大学
大正大学 立正大学 ルーテル学院大学
関東学院大学 立教大学 法政大学 日本大学

<http://shasenkyo.org/>

ご挨拶

福祉創造のプロフェッショナル教育

社会福祉学コース 諏訪 徹

社会福祉の実践・政策の現場には、実践知とアカデミックな知を統合した専門知を持つ、本物のプロフェッショナルが必要です。前期課程では、他領域の専門家や多様な利害関係者と討議・協働しながら、人々の暮らし、地域、社会を支える福祉の仕組みを創造し、運用・経営できる、専門知をもったプロを養成します。後期課程では、政策・実践を支える教育力・研究力をもった研究者を養成します。

豊かな実務経験、研究・教育経験をもった社会福祉コースの教師陣が、皆さんの学びをサポートします。



教員・専門領域

教員	職位	専門領域
太田 由加里	特任教授	児童福祉、スクールソーシャルワーク
○金子 絵里乃	教授	ソーシャルワーク、臨床死生学
○久保田 純	准教授	ソーシャルワーク実践理論、公的扶助
○白川 泰之	教授	社会保障法、居住支援政策
○諏訪 徹	教授	地域福祉、福祉政策、福祉マネジメント
○高石 啓人	助教	児童福祉、スクールソーシャルワーク
宮崎 理枝	教授	社会政策、ジェンダーと社会福祉
中野 航綺	助教	社会政策・地域福祉
○山田 祐子	教授	高齢者福祉、虐待対応ソーシャルワーク
○吉田 仁美	教授	障害者福祉、障害者ジェンダー統計

※令和7年4月1日現在。「○」は、後期博士課程研究指導教員

本学では、多様な研究領域で研究・実務を行ってきた教員が、大学院生の指導にあたります。主査・副査による指導はもちろんのこと、研究テーマや研究手法に応じて、複数の教員からアドバイスを受け、研究・論文執筆に取り組むことが可能です。

授業

学位を取得するためには、必修科目を含む所定の単位数（30単位）を取得し、また学位論文を提出することが必要です。学位の取得に向けて、本学では幅広い専門知識と実践力を培うための多彩な科目を提供しています。

1年生では必修科目として社会福祉研究法を履修し、社会福祉学研究における作法や研究方法の習得を目指します。

また社会福祉研究法と並行し、各人の研究テーマにそって授業を履修して、研究テーマに関する理解を深めていきます。

それらの授業を通じて得た知識を活用し、社会福祉総合研究では、自身の学位論文の執筆や調査分析を進めていきます。

開講科目一例



社会福祉研究法1・2

オムニバス講義：代表 諏訪徹 教授

本授業は、担当教員がオムニバス方式で社会福祉の研究方法を講義する。各教員が、これまでに行ってきた研究を紹介し、具体的にどのようなプロセスで、どのような研究方法を用いて、どのように研究を行うかについて具体的に紹介する。

多種多様な研究方法を学び、関連した文献等を読み、受講生同士ディスカッションすることを通して、受講生が修士論文を作成するプロセスを学び、自らの研究テーマにあった研究方法を見つけるきっかけとなる授業である。



ソーシャルワーク実践理論基礎研究

担当：久保田 純 准教授

「人間：環境：時間：空間の相互作用」のもとで展開されるソーシャルワーク実践を俯瞰的に理解するためには、人間の「意味世界」の複眼的な理解とシステム思考による「全体と部分」の階層構造的な理解が視点として求められる。

本講義では、このようなソーシャルワーク実践を分析していく上で基盤となる「社会構成主義」や「一般システム理論」などのメタ理論を、文献の読み込みを通して学び、修士論文を作成する上での基本的な知識の習得を目指す。



障害者福祉基礎・応用研究

担当：吉田 仁美 教授

2000年以降の障害者施策は、障害者権利条約の批准に向け、当事者参画のもとに進められてきた。障害者基本法の改正や障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の制定を経て、障害者権利条約に批准した。

こうした動向を前提に、文献や資料を活用し障害者福祉の歴史や思想を検証することで、障害者の権利や障害者施策の現在とこれからの検討する。また当事者による運動史やその意義を学び、当事者が主体となり力を発揮できる支援や社会について理解を深める。

過去の修士論文題目

- ・ハウジングファーストの効果と有用性：当事者の語りからみた「住まう」ことを支援する意味
- ・アクションリサーチによる不登校支援の研究：不登校生徒の早期発見・対応・予防に向けて
- ・介護職員の内発的動機づけへの変容と職務特性に係わる諸要因との関係：小規模多機能型居宅介護事業所の調査から
- ・中国における介護職員による高齢者虐待防止の課題：上海市の高齢者福祉施設への調査研究から
- ・中国・湖北省における留守児童の現状と求められる支援：小学校教員の聴き取りから
- ・中国北京市都市部における「養老宿場」の政策と経営実態の把握に基づく課題と展望：経営者へのインタビュー調査を通じて
- ・生活介護（通所型）の実践における心理的安全性の必要性-チーム機能の促進要因・阻害要因の質的データ分析から-

— 修了生の声 —



テーマと向き合い成長する2年間

2019年度修了 三村祐介さん

大学院では、自分の研究テーマとひたすら向き合い、論文を書き続ける「孤独な時間」が圧倒的に多いです。辛く苦しい時間がほとんどですが、大学院という特殊な環境で得られた経験、知識、スキルは大きな財産となりました。研究過程において、物事を調べ、まとめ、分析し、論理的に伝えることが自然と身に付き、仕事をする上でも大いに活かされています。

実践知を学知へ、そして未来へ

2020年度修了 竹村睦子さん

還暦記念にスクールソーシャルワーカーとしての11年間の活動のふりかえりとまとめのつもりで2018年に大学院に入学しました。

3年かけて修論をまとめ、主査の教授に背中を押され現在も活動を続けています。今にして思うと、新たなスタートのための貴重な学びの時間だったと思います。



日本で学び、国際的な視座を獲得

2022年度修了 石小玉さん

大学院で学ぶことで、まるで土に再び根を張り、自由に枝葉を伸ばした木になったようです。日本の政策・制度・理念や時代背景を学び、中国と比較しながら、主体的に地域福祉研究を進めることができました。これからの人生にとって大切な経験であり、世界を見る視点や問題意識が大きく変わる経験でした。

働きながら学ぶ楽しさ

2023年度修了 石橋香菜子さん

学びを現場に還元したいと思い、生活・仕事・大学院を両立させてきました。大変すぎてあんなに泣いたのは、赤ん坊の時以来でした。

調査で現場の声を聴いた時には、自分の視点は間違っていなかったのかとも思い、また研究が現場の誰か1人に伝わったと実感した時には研究してよかったと心から感じました。この楽しさを多くの方に経験してもらえたら。誰でもいつからでも学べる環境がここに 있습니다。



研究推進のための機会提供



学生の主体的な研究をサポートするために、本コースでは様々な機会を設けています。

■ 研究発表とブラッシュアップ

研究を効果的かつ効率的に進めるために、本学では修士課程1年目の年度末と修士課程2年目の夏に「中間報告会」を開催しています。中間報告会では、研究の進捗を発表し、今後の研究に向けた方向性を確認します。普段指導をうける教員以外の教員からもコメントやフィードバックを受けことができ、多様な視点から自身の研究を鍛える機会となっています。自身の研究を整理し要点を発表するという、学術コミュニティにおける発表の経験を積むことで、自身の研究をわかりやすく伝えるための工夫についても学ぶ機会となっています。

■ 研究成果の社会への発信

修士論文の執筆と口頭試問を無事に終え、学位を取得した学生には、研究成果を広く社会に発信する場として「修士論文成果報告会」を開催しています。この報告会には、在学する大学院生に加え、学部生や自身の研究に協力してくれた調査対象者を招待することも可能です。研究成果を広く社会に向けて伝える絶好の機会を通じて、研究が社会課題の解決や福祉社会の実現に貢献し、社会全体での好循環を生み出す一助となることを期待しています。

■ 大学院特別講義

本学では大学院生に対し、国内外の研究をリードする著名な研究者を招いて「大学院特別講義」を毎年実施しています。この特別講義の講師は、大学院生の研究分野や関心を考慮して選定されており、学生が学びながら最先端の研究に触れることができる貴重な機会を提供しています。

著名な研究者との交流や議論を通じて、研究に対する理解を深めるだけでなく、学生自身の研究に対するインスピレーションを得る機会ともなっています。

2023年度：柏女 霊峰氏（淑徳大学教授・児童福祉研究）

市町村を基盤とした児童福祉の実施体制構築を追求してきた専門家である柏女先生を招聘し、日本の子ども・家庭支援の歴史や現状、今後の課題についてご講演いただきました。またフリーディスカッションが行われ、支援体制の課題や制度発展について議論しました。

2024年度：三井 さよ氏（法政大学教授・ケア研究）

長年にわたりケアや支援について研究を続けてきた三井さよ教授を招聘し講義を行っていただきます。行為としてのケア・支援ではなく「場」（社会）としてとらえることの意義と可能性について、研究枠組みや研究方法をご紹介いただきながらお話しいただきます。

3つのポリシー

■アドミッション・ポリシー

社会学専攻社会福祉学コースでは、社会の複雑化とともに高まりゆく社会的要請に対して、社会福祉学の領域における高度な学識と問題解決能力を有することで、学問の進展や、社会に対する積極的貢献に寄与しうる専門的職業人の育成を教育目的とします。本専攻では、この目的のもと、社会福祉学の学問的成果を積極的、かつ、創造的に社会へ還元する意欲と適性を有する熱意ある学生を受け入れます。

〔博士前期課程〕急速な社会の進展に伴い高度で複雑で多様化した社会問題や社会福祉問題に対応するため、確固たる理論的基礎に支えられながらも柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、かつ、高度な専門的知識とバランスのとれた社会感覚を備え、現代社会の解決すべき諸問題に対して、先進的な社会福祉学の理論と援助技術（ソーシャルワーク）を駆使して、問題解決に向けて積極・果敢に対応できる高度な専門職業人を育成することを目的としています。

〔博士後期課程〕博士後期課程では、社会福祉に関する明確な問題意識、より専門的な知識、研究方法を修得し、自立的・創造的に研究を進める熱意、また、研究の成果を社会に還元して社会福祉の進展に貢献する意欲を持ち、研究者または教育者を目指す学生を求めます。

■カリキュラム・ポリシー

社会学専攻社会福祉学コースでは、社会福祉学の学問分野を中心に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを備え、社会が直面する新たな問題に取り組むことができる有能な人材の養成を目指しています。

〔博士前期課程〕「社会福祉研究法」「社会福祉基礎研究」「社会福祉応用研究」の3領域からなるカリキュラムを編成し、先進的な社会福祉学の理論と方法を駆使して、問題解決に向けて積極・果敢に対応できる高度な専門職業人の育成を目指します。夜間開講を中心にカリキュラムが構成され、社会人入学生も専門的実践を活かして高度な研究を行うことができます。

〔博士後期課程〕博士後期課程では、一定の研究能力を基盤としつつ、専門分野の指導教員による研究指導のもと、自らの専門分野において研究課題に自立的に取り組み、博士論文を作成していきます。その過程では、研究成果について、専攻内での報告会のほか、積極的に学会発表や学会誌への投稿を積み重ねていき、研究内容をブラッシュアップしていくことも求められます。

■ディプロマ・ポリシー

社会学専攻社会福祉学コースでは、研究指導教員の指導のもとで行った研究成果が、緻密、かつ、正確に先行研究を踏まえているか、現代社会が提起する社会福祉学的諸問題に対して問題解決力を示しているか、そこに独創的、かつ、卓越した観点と見識が備わっているかを判断基準として、以下の学位論文の審査を行います。

〔博士前期課程〕社会福祉の様々な政策及び技術的方法を学び、高度な学識と高い専門的知識を持ち、現代社会が抱える福祉問題への確かな視点と分析能力、政策立案能力を有し、社会の解決すべき諸問題（福祉問題）に対してその専門性を発揮し、社会に貢献できる人材の育成を行います。

〔博士後期課程〕博士後期課程では、カリキュラムポリシーに沿った研究活動を行い、専門とする研究分野において、高度で専門的な知識を修得し、自立した研究者として自ら現代社会の抱える社会福祉に係る課題の発見・分析を通じてその解決にアプローチする能力を身に付け、社会福祉の発展に寄与できる人材に博士号を授与します。これらを博士論文、口述試問において示すことができる必要があります。最終審査に当たっては、上記の視点からの審査に加え、研究の独創性、関係する学会での発表や論文の掲載など、在学中の研究活動を含め、今後の研究者または教育者として社会に貢献できる可能性についても考慮します。

入試日程

【第1期入試・社会人第1期入試】

- 入学資格審査書類提出期間：令和7年7月22日（火）～8月12日（火）
- 出願期間：令和7年9月3日（水）～9月10日（水）
- 試験日：令和7年9月27日（土）
- 合格発表：令和7年10月8日（水）
- 入学手続期間：令和8年2月27日（金）～3月11日（水）

【第2期入試・社会人第2期入試】

- 入学資格審査書類提出期間：令和7年12月5日（金）～12月19日（金）
- 出願期間：令和8年1月9日（金）～1月21日（水）
- 試験日：令和8年2月14日（土）
- 合格発表：令和8年2月25日（水）
- 入学手続期間：令和8年2月27日（金）～3月11日（水）

【外国人留学生入試】

- 入学資格審査書類提出期間：出願締切日の1ヶ月前まで
- 出願期間：令和7年10月10日（金）まで
- 試験日：令和7年11月15日（土）
- 合格発表：令和7年11月26日（水）
- 入学手続期間（第1段階）：令和7年11月27日（木）～12月10日（水）
- 入学手続期間（第2段階）：令和8年3月11日（水）まで

アクセス

京王線

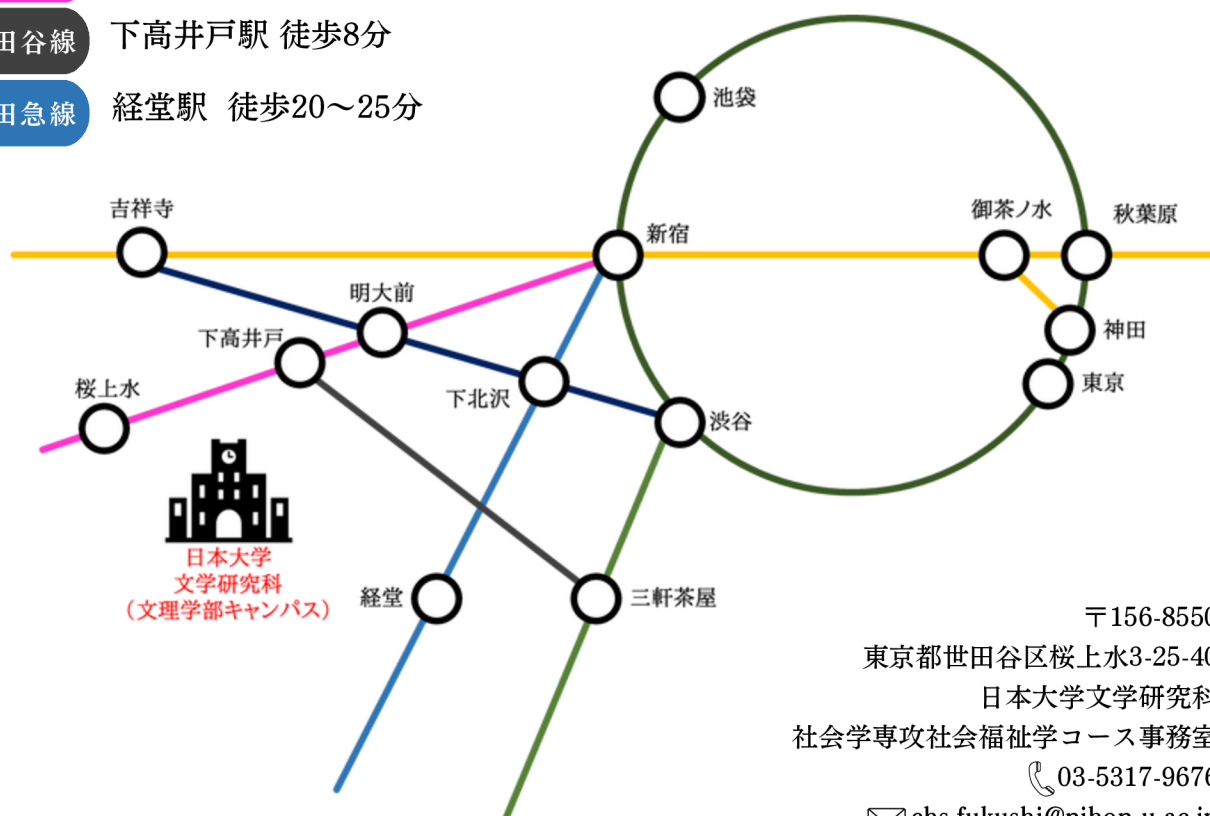
下高井戸駅 徒歩8分 または 桜上水駅 徒歩8～10分

世田谷線

下高井戸駅 徒歩8分

小田急線

経堂駅 徒歩20～25分



〒156-8550

東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文学研究科

社会学専攻社会福祉学コース事務室

☎ 03-5317-9676

✉ chs.fukushi@nihon-u.ac.jp